

はばたき

2025. No. 103

本館建替えプロジェクト





開所当時

本館での思い出

～本館建て替えにあたり～



令和7年11月

本館の思い出

大久保学園 重鎮 加藤 安利

私にとつての『本館』は、数え切れないほどの思い出が詰まっています。春には桜が満開となり、夏にはひまわりの花、秋は金木犀の花の香り、冬にはさごんかの花と次から次へと季節を感じる木々が建物の周囲を彩ってくれました。週末には施設内や外周を利用者さん達と一緒に草取りをしたことが今となっては懐かしい思い出です。

今から49年前、私が勤め始めた頃、利用者さんは男性30名、女性28名の合わせて58名で、8畳一部屋に4名ずつ利用者さんが生活していました。日中活動は主に作業指導、生活指導、学習指導、体育指導の4つの活動部門があり、社会参加に向かって利用者さんと支援員が丸となって取り組んでいました。

こうした活動の中、年に5、6名の利用者の方が就職することができました。施設を卒業し社会に旅立っていく姿を見届けた時はうれしさや寂しさ、心配等と複雑な感情が入り混じり、一人一人との出会いと別れに感慨深い思いを繰り返していた日々を思い出します。

その頃の本館での1日は、朝は起床から始まり布団たたみ、着替え、洗顔、掃除をして玄関前で朝礼を行いラジオ体操、また、当時は利用者の方々が若かったこともあり、船橋特別支援学校まで折り返し約2キロのマラソンも行っていました。食堂は現在の職員室にあり、狭いスペースの中、和気あいあいの雰囲気の中で食事を楽しんで、夜は集会室に1台しかないテレビをみんなで観て過ごしました。当時の職員寮にはお風呂がなく施設のお風呂を借りて支援員も利用者さんと一緒に入浴をしていました。いろいろな会話をしながらお互いを理解し信頼を深めることが出来ていたように思います。

今、改めて思うことは利用者さん一人一人が希望や夢を持ち、社会に旅立ちたいという目標に向かって生活していた姿が強く印象に残っています。これから本館が新築され、当法人も益々発展し前に進んでいくことと思います。新しく生まれ変わる本館を楽しみに、利用者さん達が希望や目標に向かって生活できるように今後も支援していきたいと考えています。

その時が……

みどり園 管理課長 齊藤 航二

本館が竣工したのは昭和47年、迎えること半世紀前になります。当たり前のことですが、法人の歴史そのものです。そこに利用者さんのお部屋があり、食堂があり、お風呂があり、作業室があり、職員室がありました。居室は8畳間の4人部屋、お布団を4つ敷くと身動きが取れない、今とは比べ物にならない環境でした。すべてが集約されていました。

屋上では、今は実施されていませんが、夏休みの帰園日前に開かれていた盆踊り大会で花火を打ち上げ、火の粉と奮闘したことを思い出します。2階に上がる階段下には水道のポンプ室があり、背をかかめながら点検に入り、よく頭をぶつけたものでした。

居住棟の裏では、家畜の牛が飼われていて出産時の鳴き声が聞こえたり、雨天時には大きなツチガエルが廊下を闊歩していたり、当初は網戸もありませんでしたので、窓を閉め忘れると羽蟻が飛び交う状態でした。それでもお水はきれいだったのか、ホテルが舞う自然豊かな土地でもありました。

歴史を刻み続け、法人を見守って来た本館です。取り壊さず、大久保学園歴史遺産と銘打って保存したいところですが、これは永く勤めた者の感傷でしょうか。

現在、より良い環境を目指し、理事長をはじめスタッフ一同様々な意見を交わしながら新しい建物の構想に入っています。どのような建物になるのか。皆様どうぞお楽しみに。

本館への想い

大久保学園 常務理事 江澤 智子

設立当初から半世紀以上にわたり、大久保学園の「顔」として、利用者の方の暮らしと想いを支え続けた本館。その長い歴史は、私たち携わる職員にとっても、数えきれないほどの大切な思い出のつまった場所でもあります。振り返れば、築50年を超えた本館では必ずしも快適に過ごせる住環境とは言いがたい状況でもありました。老朽化が進む環境を少しでもより良くしたいと、職員一同で居室の壁紙を張り替え、屋根に登ってペンキを塗り直す。決してプロの仕事とは言えませんが、利用者の方に少しでも快適に過ごしていただくため、手をかけ続けてきた日々。本館は、大久保学園の歴史そのものであり、ゆるぎない象徴でした。

そして、近年で最も忘れられないのが、新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった際の出来事です。本館を隔離し、職員は慣れない防護服を身にまとい、昼夜を問わず利用者の方への献身的な看病と生活支援に全力を尽くしました。不安な状況下で、職員が一つになつて困難を乗り越えたあの時間は、本館という隔離空間がより絆を深める場所でもありました。

愛着のあるこの本館という居住空間が、今年度その役目を果たし歴史の幕を閉じることは、言葉にはできない寂しさがあります。これまでの50数年を繋いでこられた先人達の想いを、私たちが確かに引き継ぎ、これからの50年に向かって、新たな一歩を踏み出す時でもあります。新たな管理棟が、利用者・保護者・地域の皆様にとって、さらに開かれた場所となり、大久保学園の新しい未来を築いていくためにも、職員一同、「創意と工夫」を凝らし、これからも「求められる」「期待される」法人を目指し続けていく。そして、大久保学園が次の世代、そしてその次の世代へと続いていくことを約束し、これまで関わってこられた皆様への感謝を忘れず、その想いをしっかりと繋いで参ります。

本館建替えプロジェクト始動

大久保学園 永坂 剛毅

「本館管理棟・居住棟の建替え」この計画自体は平成の終わりに法人的なマスタープランとして理事長からお聞きしていました。途中世界的な大恐慌となった新型コロナ感染症や東京五輪など社会状況に影響を及ぼす事柄もあり、致し方なく延期を余儀なくされてきました。そしてその計画がいよいよ法人設立55年事業本館管理棟・居住棟建替えとして今年度本格的に始動しました。また、今回の建替えの計画は7月に竣工された新規GH原宿四・伍番館の開所による東館女性利用者さんの地域移行、本館男性利用者さんの東館への異動と完全個室化に加えて既に着工されている木工所の医務室、洗濯場、大浴場へのリフォームや南館職員室の改装など一連の流れが長期的な計画の中で進められている事業となっています。

の職員の動きとは少し乖離したような面もあり、かといって明確な要望を提示することも出来ず、なかなか思うように打合せが進まない時期がありました。そんな中、設計の方達に実際に働いている様子、職員の動線を今一度確認していただく機会があり、意向のすり合わせを再確認することが出来た事でその後の打合せは順調に意見を交わし合いながら進められたように感じます。

建物内の機能について、基本的には現状の機能を残し事務所や職員室のスペースは広く設定し、一同に会して業務を進められるような仕様となります。また、健康管理部門の医務室については当初本館内の設計に入っていました。令和7年10月の時点で計15回の打合せを行い、当初設計事務所の提示する案は回廊状の段々になっている職員室や大きな吹き抜けを設けたレイアウトなどとてもお洒落ではありましたが、しかしどこか実際の職員の動きとは少し乖離したような面もあり、かといって明確な要望を提示することも出来ず、なかなか思うように打合せが進まない時期がありました。そんな中、設計の方達に実際に働いている様子、職員の動線を今一度確認していただく機会があり、意向のすり合わせを再確認することが出来た事でその後の打合せは順調に意見を交わし合いながら進められたように感じます。

できるような研修室、実習生や荒天で翌日の勤務に備えて泊まり込む等職員が使える3部屋のゲストルーム、質の高い休憩を摂るための休憩ラウンジが整備されることとなりました。

工事期間は解体から合わせると約1年半に及びます。これから年末から年始にかけて各部署の引越しと、目まぐるしく動きが出てきます。とても煩雑な時期になると思いますが、50年に一度のこの大きな変化を遂げる時に働いていることに喜びを感じ、全職員一丸となって新しい本部棟竣工に向け尽力していきたいと思っています。



原宿GH設計プロジェクト

大久保学園 友田 陽子

令和5年よりスタートした新規グループホームのプロジェクトも令和7年6月ついに完成を迎え、新築ならではの木造建築の良い香りがする中、7月中旬より新しい生活が始まりました。引越した当日はあいにくの大雨でしたが、こんな時こそ法人一丸となつて、20名の方の引越しを無事に終えることが出来ました。利用者の皆さんがどこか緊張感を漂わせつつも、わくわくを隠せない表情を浮かべながら、真新しいグループホームに入ってくる様子は言葉では表しがたく、私の中でも忘れられない一場面となりました。

引越してから3か月経過後、生活はだんだんと落ち着いてきており、今は穏やかな時間が流れています。まだまだ始まったばかりの原宿四・伍番館での暮らしですが、ここからさらに日々の環境整備や空間づくりにも力を入れ、利用者の皆さんのよりよい生活を目指していきたいと思っています。

利用者の中には平成8年の東館竣工から住まわれている方もおり、20数年ぶりの引越しになった方もいらっしゃいます。そんな



夜間のひと時

代宿地域支援センター 積田 純子

代宿第二グループホーム『みらい菴番館』は、女性利用者10名が生活されています。

日中の平日は、生活介護事業所等に通所し、休日は、散歩やドライブ等に出掛けていた利用者さんも、夕食を終えた頃によくゆつくりとした時間を迎えます。ビーズやパズルを黙々と行う方や、音楽を聞きながら歌ったり踊ったりと元氣いっぱいの方、そして大好きなテレビ番組を楽しんでいる方など、夕食後のひと時を思い思いに過ごされています。

そんな時、ふと気がつくと、利用者さん同士の会話が聞こえてくる事があります。そつと耳を傾けると、彼女たちの間で通じ合っている単語や二語文のやり取りで、急にケラケラと笑い出す姿を目にすることがあります。時には、お互いが相手の伝えたいことを勘違いして急に怒り出す事もありますが、できるだけそつと見守っています。腰を痛めた職員のことを気遣ってくれる優しいやり取りが聞かれることもあり、利用者さんの会話にはほっこりすることが沢山あります。利用者さんの中には話しの出来る方もいて、他の利用者さんが眠った後に、外出や買い物物の希望、家族のこと、これからのことなど、静かになった『みらい菴番館』でゆつくり気持ちを伝えて下さいます。

夜は、利用者さんと職員の気持ちがい合える特別な時間だと思っています。



敬老のお祝い

大久保学園 林 侑紀

9月12日(金)に敬老のお祝いの会として、佐倉市にあるウイシユトンホテル・ユーカーリのレストランにて食事を実施しました。



今年度、大久保学園では12名の利用者さんが対象となり、60歳の還暦から古希、喜寿、傘寿、そして88歳の米寿を迎えられた方々にお集まりいただきました。最年長は今年度89歳を迎えられる利用者さんです。敬老の日というのは高齢者を敬い、健康でさらなる長生きを祝う行事ごとであることから何度でもご参加いただけたらと思っております。

ゆつたりとした個室のレストランにて、千日理事長の祝辞の後に乾杯を行いコース料理を楽しみました。乾杯の際は皆さん明るく、嬉しそうな表情を浮かべていたことが印象に残っております。中にはお酒を飲まれる利用者さんもいらつしやり、会話を楽しまれる方もいればニコニコとした表情でお食事を召し上がっている方、笑顔も多くとても穏やかな時間を過ごされていました。

皆さんこれからもお元気で過ごしていただけたらと願っております。改めましてこの度はおめでとうございました。

パッケージデザインのロゴマーク完成

ふなばし工房 施設長 渡辺 寛之

数ヶ月前、ふなばし工房、代宿地域支援センターリアンで使用する新しいギフト用の箱、紙袋、包装紙が納品されました。

さかのぼること1年前、千日理事長より、販売促進のための大久保学園ブランドでオリジナルパッケージを作ったかどうかのご提案を受けました。そして、デザイン業者を入れて進めてまいりました。コンセプトは「シンプルで、学園のイメージにあった、オリジナリティがあるもの」。

まずは、ロゴマーク作成に着手。主要となるロゴマークのデザインは各事業所より公募。67通が集まりました。その中でふなばし工房の新里恭子さんの書いたデザインが多く職員の目をひき、圧倒的多数の投票結果をもって採用されました。幾何学模様の配列、独創性、やさしいイメージで素晴らしい出来栄と感じています。ご本人は多くを語ることはありませんが、「パンやお菓子をイメージして書いた」とのことです。

現在はロゴマーク入りのギフトセットを作成し新商品としてモデル型ネット販売、ふるさと納税品にも出店しました。今後はお菓子のパッケージ、商品ポップへと展開していきたいと考えています。そして、ロゴマークを広く浸透していけるよう努めてまいります。



職員インタビュー



梨香園
高須 麗奈

Q 前職は何の職業をしていましたか？

A 地元の保育園で保育士として二年働き、その後は原宿の飲食店でアルバイトとして二年働いていました。

Q 全く違う分野の職業から福祉業界を選んだ理由はありますか？

A 元々は、再び保育士として働こうと思い転職活動を始め、大久保学園の企業内保育の求人に応募しました。そこで理事長から支援員の方に興味はないか、とお声掛けをいただきました。そこで、「初めての経験で不安はあるけど人と関わることが好きだし新しい分野にも挑戦してみたい！」と感じたため、大久保学園に支援員として入職しました。

Q 福祉業界に転職して嬉しかったことはありますか？

A 保育士とはまた違った視点で寄り添う支援が出来ている実感があること。また、職員同士のチームワークを強く感じることで、入職できたことを嬉しく思いました。

Q 大切にしていることはありますか？

A 笑顔です。人を笑わせることが好きで、私が笑顔でいることで周囲の人も笑顔になってくれたらとても幸せに感じます。常に周囲を明るくできる存在でありたいです。

Q これから大久保学園でどのように過ごしていきたいですか？

A 持ち前のコミュニケーション力を活かしながらも、新しい知識や支援の方法も吸収していきたいです。利用者さん一人ひとりに合った支援は勿論、自分らしい支援の仕方も見つけ、長く続けられるよう努力していきたいと思っています。よろしくお願致します。



大久保学園
高橋 瑞希

Q 前職は何の職業をしていましたか？

A 「RORO（ローロー）船」という車両を運ぶ船で航海士として働いていました。

Q 全く違う分野の職業から福祉業界を選んだ理由はありますか？

A もっと人の役に立つ事を実感したいと思い、転職活動を始めたのですが、その際に大久保学園さんにお声がけいただき入職しました。

Q 福祉業界に転職して嬉しかったことはありますか？

A 実際に利用者の方々とコミュニケーションをとりながらの仕事で日々戸惑うこともありましたが、毎日をルーティンワークで過ごす前職よりも、毎日を頑張っている「今」を楽しめているのが何より嬉しいです。

Q 大切にしていることはありますか？

A 人には必ず考えていることがある。と考えています。どんな意見だろうと無得にすることはあつてはならない、状況によっては要望をかなえることは出来なくてもその意見を出来る限り読み取ろうとする努力は怠ってはならないと考えています。

Q これから大久保学園でどのように過ごしていきたいですか？

A いまだ先輩方の背中を追うことしかできていないので、いつかは先輩方と肩を並べられるよう仕事に邁進していきたいです。そのうえで利用者ともっとコミュニケーションをとり、関係性を築いていけたらと思います。



光風みどり園
山本 絵里佳

Q 前職は何の職業をしていましたか？

A 航空会社で客室乗務員として約10年間働いていました。24時間365日のシフト体制のため、育児との両立が困難になってしまったことを機に、転職活動を始めました。

Q 全く違う分野の職業から福祉業界を選んだ理由はありますか？

A 人と関わる仕事・人のためになる仕事をしたいと感じていました。また、姉が福祉業界で働いていること、知的障害を持った親戚がいることから、いつか自分も福祉業界で働いてみたいという思いがありました。初めての分野の仕事で不安もありましたが、いいチャンスだと考え、大久保学園の求人に応募しました。

Q 福祉業界に転職して嬉しかったことはありますか？

A 利用者に関わる中で、日々新たな発見があり、毎日元気な姿を見る事ができることが嬉しいです。利用者の人生に少しでも関わることが出来ることに喜びを感じます。また、人柄の良い優しい職員が多く、職員からも多くの事を学んでいます。

Q 大切にしていることはありますか？

A 利用者・職員共に、コミュニケーションをしっかりとることを意識しています。また、日々様々なことが起こりますが、焦らず落ち着いて行動する事を心掛けています。そうすることが、利用者の安全に繋がると考えています。

Q これから大久保学園でどのように過ごしていきたいですか？

A 入職して約2年が経とうとしています。今まで以上に視野を広く持ち、目の前の事だけでなく、先を見越して行動出来るようになりたいです。

施設交流会

大久保学園 吉岡 里夏



7月5日(土)、初めて3法人交流会に参加し、私はリレーに参加しました。先輩職員の方々の取り組む姿勢や他法人の職員の方々の活気や団結力に刺激を受け、緊張もありましたが自分自身も楽しむことが出来ました。普段とは異なる環境で貴重な経験を得られた有意義な時間となりました。

学園祭

大久保学園 梅村 淑隆



11月3日(月)に第32回大久保学園祭が開催されました。学園祭成功に向けて夏頃から準備を進めてきました。今回は総勢750人弱の方々が参加されました。保護者と久しぶりに会う利用者も多く、楽しそうに各テーブルや売店に並ぶ様子が見られました。

学園の大規模なイベントに携わらせて頂き準備段階から多くの人の助けを借りて無事に学園祭を開催する事が出来ました。来年以降も利用者と保護者と職員が楽しめるイベントとなる様に、準備をしていきたいと考えています。

フライングディスク大会

大久保学園 岩城 剛

令和7年10月2日(木)、第32回千葉県障害者フライングディスク選手権大会が千葉県総合スポーツセンターで行われました。11名の利用者が参加、当日は気持ち乗らない方もおりましたが、競技を開始すると普段みせない笑顔や一生懸命に取り組む姿がみられ、それぞれが好成績を残すことができた結果としても充実した大会でした。



手をつなぐスポーツの集い

大久保学園 道口 愛

9月25日(木)に手をつなぐスポーツの集いに参加しました。リレーでは、利用者男子4位、利用者女子2位、職員は男女ともに2位という結果でした。リレーの他の種目においても、真剣な姿勢と同時に笑顔も見られ、楽しまれていました。今後も来年の参加に向け、利用者職員一体となり、体力の向上を目指していきます。

大久保学園
ホームページ QR大久保学園
Instagram大久保学園
X QRコード

後援会

令和七年二月二十六日
令和七年八月十九日

青鹿春美・中台節子・(株)グローバル
長泉 顕・小林英三・鶴田まさ
柏崎安孝・長谷俊彦

寄付金

令和七年三月二十九日
令和七年十月十日

東京城西ロータリークラブ
大久保学園後援会
市川市肢体不自由児者父母の会
和田浩行・鈴木成子
後藤克志・青木富美子
(株)イトーヨーカドー我孫子南口支店
(株)イトーヨーカドー我孫子支店
霊友会・根岸正国
大久保学園保護者会

みどり園祭

令和七年十月十一日

お祝い金品

関澄ちとせ・横須賀照治・鈴木偕雄
菊池 薫・(株)東進ビルシステム
(株)メフォス

ありがとうございます

(敬称略)

はばたき 二〇二五 一〇三号

発行/令和七年十一月

発行所/社会福祉法人 大久保学園

TEL 〇四七(四五七)二四六二

FAX 〇四七(四五七)四〇六九

URL <https://www.ohkubogakuin.or.jp>Mail shienka@ohkubogakuin.or.jp編集/大久保学園 広報委員会
表題書/中原 強